

令和 8 年 第 6 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 8 年 6 月 5 日（金） 午後 2 時 00 分
- 2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、
鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、千葉康弘 学校教育専門監
- 5 開 会 午後 2 時 00 分
- 6 令和 8 年第 5 回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
林委員、片倉委員 署名。
- 7 教育長報告
（１）一般事務報告 なし
（２）専決事務報告 なし
- 8 議 事
議案第 27 号 令和 9 年度使用教科用図書採択基準について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

鈴木教育長	まず採択基準について、資料 2 の 1（3）が変更になったもの。自立や社会参加につながる力の育成に資するものになっている。前回は、配慮がなされているかという弱い表現であったが、今回は育成に資するものという強めの表現となった。次に資料 3 では、除外図書が出てきており、購入することができない図書が前回の一覧から削除されているもの。除外図書は 8 冊ほどあり、除外理由としては、絶版になり供給不足になっているためである。今年度までは特別支援学級のための選定であり、来年度は小学校が 4 年に一回の改訂となっている。
丹羽委員	教科用図書選定資料を見ると、これだけ教科書を作っている会社があるのに

一 孟 森 委 員

改めて驚いた。この中で採択される教科書はごく一部だけであり、それでも続けて発行していくということはどの会社も頑張っておられるのだと感じた。

学校教育法附則 9 条に係る教科用図書ということで、いわゆる通常学級の子供たちが使う教科書とは少し性格が違ういわゆる絵本やシリーズ本、あとは図鑑とか、そういう類のものがほとんどであり、一般に売り出されている本屋さんに並んでいる本の中から選ぶというような考え方をするのが良いのかも知れない。その子供ごとの特性に応じて、この子にはこの本が良い、というように採決していくというふうに区別して考えたほうが良いと思う。その上で、採択の基準で 1 の括弧 3 が「資する」と変更となった。やはり世の中が目まぐるしく変わっているなかで、身の自立・社会的自立ということがまず第一となり、子供たちの事を考えると当然のことなんだと思う。やはり新しい情報が入っているものを与えていって、それでそういう力を伸ばし、身につけさせていくというふうなことが求められているというこの理解なのだと思う。その中で削除された本が出てくるのは、そういう意味では当然のことであり、どんどん更新していくことが必要なのではないかと思う。

丹 羽 委 員

一孟森委員のおっしゃるとおり、普通学級に通ってる子供は少々教科書が違っていいかと思うが、支援が必要な子供たちにとっては、その子に合った教科書でなければいけないと感じた。

余談になるが、現在放送中の NHK の朝ドラで、江戸から明治にかけて日本で初めて看護師になった女性の物語であるが、その中で医者とは人の命を救うのが仕事、看護師は人の心を救うのが仕事と言っていた。良い言葉であり、では教師は？僧侶は？と考えてみた。学校の教師は、やはり子供たちの学ぶ楽しさと、それから子供たちの健やかな成長を願い、そのためには、信頼されて、愛されなければならない。ただこれだと長いので、もっと短い言葉で何かないかと考えた。教師は子供の未来を育てるのが仕事、僧侶は生と死と両方であり、生と死の中から魂を救うことが僧侶の仕事、と短い言葉でまとめてみた。一孟森委員がおっしゃったとおり、やはり 1 人 1 人に合った教科書にしなければならない。子供 1 人 1 人の未来を育む教育でなければならぬと朝ドラを見ながら感じたもの。

鈴 木 教 育 長

保護者の方からすれば、特別支援学級に入っても普通学級の子と同じ教科書を欲しいという願いがある。そのため同じ教科書を頼んでおき、補助金等を活用して、その子にあった教科書を購入して活用するというのが一般的であると思う。親御さんの気持ちとしては普通学級の子と同じ教科書を持っていたいという方もいらっしゃると思います。

議案第 28 号 大河原町部活動地域展開推進協議会委員の委嘱について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第 29 号 部活動指導員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

丹羽委員	部活動指導員というのは平日なのか。土日ではなく平日だとしたら、仕事はどうされているのか。そういう仕事があるのか。
鈴木教育長	お勤め先の会社が理解があり、許可してくれているもの。
丹羽委員	素晴らしい会社だと思う。どこの会社なのか。褒めてあげたい。
鈴木教育長	会社名は個人情報もありお教えできないが、仙台市などでは部活動指導員に任命する人を会社が雇って、午後から部活動の指導に行きなさいという会社もあるようだ。
丹羽委員	企業の社会的貢献であり、素晴らしいと思う。

7 その他

(1) 教育長報告

1 学びが未来を開く(西谷尚徳^{にしただにひきのり})

西谷氏は、明治大学から楽天に入り、そして阪神に移籍した後に辞めて、今は立正大学で教育学の教授になられた異色な方である。現役のときからプロ野球の選手にとってプラスになるということで、常に勉強をしていた。引退してからも次のステージで素晴らしい職に就いている。努力家なのだと思う。7 ページ下で西谷氏は、「プロ野球選手はお客様の期待通りだと駄目なんです。前回と同じではお金をもらえない。常に期待値を上回らないといけない。それがプロ野球選手のときに学んでいたモチベーションでした。どんどん自分の商品価値を向上していかなければいけないプロフェッショナルの使命がありました。教師は、教育の質を維持したり、少しでも向上したりするという使命を持つプロフェッショナルです。学び続けることで、その使命を全うできると思います。」と書いている。勉強しましょうということである。

8 ページの一番下では、コロナ禍があり、生成 AI が出てきて、世の中は大きな転換期を迎えているが、先生の仕事は人間にしかできないことであると思うし、人間がやるからこそ人間が備えるべき力を育むことができるとおっしゃっている。やはり教育は人なりと昔から言われているが、そのところは大事にしていなければならないと思う。

2 国語教育

(1) 小学5年説明文「言葉の意味が分かること」(今井むつみ)

(2) 「学習」(鈴木の解答例)

(3) 言葉に立ち止まって読む(今井むつみ)

(4) 小学5年説明文「言葉の意味が分かること」(授業者 弥延浩史^{やのべひろし})

大きな2点目は国語教育で、これは東京書籍ではなくて光村図書というシェア No.1 教科書会社であり、国語では、多くの子供たちがこの光村図書の教科書を使っている。

この文章、教材を書いた今井むつみ氏の「言葉の意味が分かること」は、小学校の説明文で難解教材と言われている。たしかにこの教材を読んで子供たちは内容をつかめない、なかなかイメージがわからないだろうなと思った。石井順治先生は、イメージとかそういうのは生活と関わっているとおっしゃっているが、まさにその通りで、生活とその言葉というものをどう繋げていくかが大事なのではないかと思う。

私自身も1回読んで、こんな感じかなと思いつつも2回3回と読んで、14ページの学習のところで、この教材を子供たちが読んで、こんなところを勉強するんだよ、わかるようにするんだよというところで、それを私自身も少し自分の頭で考えて書いてみたのが15ページである。その要約では70点はもらえるかなとは思うが、やはり難しく、小学校5年生でここまでできる子は上位の1割ぐらいではないかと思う。

こういう難教材をどのように指導するのが大きな課題となる。その中で著者の今井氏が言葉に立ち止まって読むということを書かれている。例えば「しぼむ」と「すぼむ」の違い。面白いと思う。それから「触れる」と「触る」の違い。こういう日本語の意味として立ち止まって考えていく。そういう言葉の違いをきちんと把握することによって学びが深まっていく、そういう事をおっしゃっているのだと思う。

3 読むことは自分を読むこと 仲間と出会うこと(千種久美子)

3点目は、千種久美子先生の、読むことは自分を読むこと、仲間と出会うことで、千種先生は石井順治先生と一緒に研究をされた先生で、この捉え方というのは石井先生と同じである。この授業記録のなかで千種先生は、詩「海の駅」の実践とともに、物語文「一つの花」「ごんぎつね」の実践を紹介している。子供の読みが級友の考えと結びつきながら、影響しながら深まっていく様子が分かる。しかも子供の生活環境をよく知っていて子供の発言がどのような生活環境や生き方から生まれてくるのかを推察して次の展開にどう生かすかが明確である。このことは石井先生と同じである。

4 育成する資質・能力を明確にした国語科の授業づくりの実際(大村幸子)

大きな4点目は、お茶ノ水女子大附属小学校の大村幸子先生の「ごんぎつね」の実践について。お茶の水女子大附属小は有名な超一流の学校であり、色々な素晴らしい生徒がたくさんいる。本実践の特色は、「ごんぎつね」の読み聞かせを行い、新美南吉の世界に誘ったこと、初発の感想を書いて交流させたこと、心に残ったことや話したいことを出し合い、整理しながら学習課題を立てたこと、学習課題の解決に向け問いを立て

たこと。子供たちが問いを作り、そしてその問いを選ばせて複線型の授業にしている。課題ごとに、自分の追求したい課題を選ばせて複線型の授業にしていく。子供の主体性を大切にしたい実践であるのいえるのではないか。

5 『教材解釈と授業展開』（氷上正）

大きな5点目が石井先生の師匠である氷上正先生の「教材解釈と授業展開」について。第1回大河原町教職員研修会で石井先生の資料と氷上先生の資料を配布し話しをしたが、時間がなくなってしまい氷上先生の資料は少ししか話せなかった。それで今日、授業展開のほうも付け加えて作った資料をお配りしている。教材解釈という言葉は、石井先生は使わず、読み味わうとか学び合うという言葉を使っておられるが、氷上先生の教材解釈という、教材に対する考え方がやはりすごいなと思うし、石井先生と同じように、本当にいろいろなことを考えていらっしゃる。これが50年前に出版されたものである。50年前とは思えないほど新鮮であり、今でも先生方に通じる内容である。

6 「学びに向かう力、人間性等」を涵養することはできているのか（日野圭子）

6点目は「学びに向かう力、人間性等」を涵養することはできているのかということで、宇都宮大学の日野圭子先生の論説である。これも非常に対話的な学びに近いというか、授業をどうしていくかということを中心に書かれている。半数以上の日本のクラスで、生徒の数学的間違いや苦戦したことに対して、教師が対処しなかったり、表面的な励ましによって取り組む努力を促したりすることにとどまっている。わからないところはそのままになおざりにされているというようなことが書いてある。児童が試行錯誤する場面では、問題の理解を深めたり、問いを探求したりする機会が授業の中にあるかを振り返ること。それから試行錯誤の中で、「自分の思考の外化」、「他者への言語化」の大事さをおっしゃっている。まさに本町が進めている「対話的な学び」がやはり算数の授業でも大事であって、そういう学びに向かう力、人間性という関わりが非常に大きい。

7 モンスター・ペアレント論を超えて（小野田正利）

（1）東京都の保護者対応ガイドラインの検討⑦地域住民も対象になる

（2）東京都の保護者対応ガイドラインの検討⑧どこまで有効か

（3）東京都の保護者対応ガイドラインの検討⑨それでも必要悪

7番目の、モンスター・ペアレント論を超えては、小野田正利先生の論説である。本町で発表した「学校と家庭・地域とのより良好な関係づくりに係るガイドライン」の東京都版を小野田先生が批判的に、あるいは概説的にしてくださっている論文であり、これを参考にしてガイドラインを作成したもの。ガイドライン中の文言を変えたことについては前回お示ししたが、現在は各学校でPTA役員会や学校運営協議会で見ていただいている。今のところ反響などはないが、世の中がそういう流れなので、当たり前だと受け

取ってくださっているのか、イエローカードいうところもわかってきているのかなと思う。

8 その他

- (1) 土曜子供塾開塾式（中央公民館）
- (2) 第1回OH!かわら楽校（BMX体験）
- (3) 小・中合同安全のつどい（丑越地区）
- (4) 「これからの学校に求められるもの」（奈須正裕）
- (5) 町立小学校運動会
- (6) 地区中体連総合体育大会

62 ページ（3）小・中学校合同安全のつどいについて。毎年度実施しているもので、今年度は丑越地区に行った。片山栄次先生が区長さんでいらっしゃるため、先生らしくパネルや写真を使ってわかりやすく説明されていた。本当に素晴らしいと思う。多くの子供たちが参加していたが、やはりこういったものがあると子供たちは集中して聞いていた。

丹 羽 委 員	まず金ヶ瀬小学校の運動会の話について。前の定例教育委員会のために用意して下さった話で、一番ビリの金メダルを思い出した。一等賞や二等賞の子供は立って褒められるが、最後に校長先生が、ビリの子供たちにも君たちは本当に頑張った、一生懸命走ってくれた、きみたちにもメダルあげるよ、僕の心のメダルを受け取ってくれっていうようなこと言う。それで子供たち手を広げろって言って、今から金メダルを贈るから受け取ってくれという。みな拍手をする。それはやはり指導力だと思う。 それから、その前に自主的な学びが最低なのだという話で、自主的な学びを高めるためにはやはり先生方は学ぶということは面白いんだ、楽しいんだということを生徒に教えなければならない。つまり知識をただ教えて詰め込むのではなく、学ぶって面白いんだということ先生が目キラキラさせて、子供たちと話すような授業になれば自分から学ぶようになるのではないかな。 それから、どうしたら子供たちが自主的に学べるようになるのか。一番最初に一盃森委員の話聞いて、教師の仕事というのは未来を育むと私は言いましたが、やはり子供たちの未来を育むためには、どうやったら育むことができるのか、要するに子供たちから慕われなければいけない、学校の勉強は楽しいんだということを教えなければいけない。教えるというか、感じさせるためにはためにはどうしたら良いのか。子供を愛するしかない。まず一番の基本は、そこに戻るのかなという感じがする。たとえば大学にいったって、これから教員を目指す学生に指導する。もちろん知識も大事だけれども、基本的
---------	--

な大切なことがあるのだと指導いただければありがたい。担任にすぐなるのではなく、やはり講習を受けてほしい。半年でも一年でも。そうすると寄り添うというか、そういったことも学べるのではないかと思う。今は下手するとぶっつけ本番で、すぐ担任になる。きついと思う。

丹羽委員が話されたことをうけて、結局は現場の先生方は、毎日本当に忙しい。教材文を本当は3回4回は読みたいが、それすらもなかなかままならないという現状が学校にある。だから、定年になってから、あるいは管理職になってからじっくり読むということもやむを得ないというのが正直なところ。現場は子供を目の前にし、ハラスメントの話ではないが、そういう問題を抱え、いろいろ子供がいて生徒指導もしなければいけない。本当に大変。今回の教育長資料で、国語シリーズがとても面白かった。やはり光村図書は、物語文も優れた教材を使っていたり、学ばせ方がやはり少し違う。

今井むつみ氏の「言葉の意味がわかること」を初めて読んだが、意思疎通を図るということを考えていく上で、子供たちに大事なことを言っている。つまりいじめのこともそうで、言葉の言葉尻で本当はそういうつもりで言ったのではないのに、相手は変なふうに受け止めて、保護者をもっと尾ひれはひれついてしまい、いやそういうことでなかったのにつて子供の方が引っ込みがつかなくなるということがある。そういう意味で、こういう教材を扱ってそれで自分自身の生きていく上での力にしていって欲しい。そういう教科書の使い方というのを一番最初に思った。

そのうえで、今井むつみ先生の論説で、色々な言葉の違いについて、以前研修センターにお世話になった際にご一緒になった高校の国語の先生と話題になったことがある。「まくる」と「めくる」の違いについて。なにが違うかわかりますか？動作の方向が違う。「まくる」は上下、「めくる」は左右。本のページをまくるとは言わない。めくると言う。なるほどと思った。

そういうことが話題になったことを思い出したもの。確かにその言葉の1個1個の違いに心を払うということに、その時気づかされた。

以前に本屋大賞を受賞した「舟を編む」という小説がある。NHKのドラマにもなった。要するに辞書を作って、言葉の海を渡っていくための舟を編んでいくという話で、例えばAという出版社の国語辞典とBとでは同じ言葉でも説明書きが違う。そういうことはある。言葉の海を渡ってくる。

本当に現場の先生方が、色々なゆとりがあれば、きっとそういうふうなことも目を向けられるだろうし、心を砕くことができいくに違いないと思う。ところが忙しいばかりに、極端な話だと教科書を開けもせず、赤本だけを持って、それでいきなり今日のページ、何ページ開けてと言ってその赤本を見て説明をして45分、50分、はい終わり、そういう先生も今でもいる

林 委 員

のだと思う。やはり教員の配置ということを教育長がおっしゃっていることで、正にその通りだと思う。もう少し先生方がこのような取り組みが出来たら良いのと思う。そこで大村先生の論説にいくのだが、大村先生は、「子供の現在地を見取り、その子供や集団に応じた単元学習を子供と共につくる。また、ワクワク感のある手立てを提案したり、温かい声かけを心掛けたりして楽しい教室にする。考えの形成及び共有の学びの柱とする。」とおっしゃっている。このようなことは、授業を作るとき一切考えたことがなかった。多分持っていて自分なりに工夫して授業をしているから、氷上先生のような論文を読んでもイメージができると思う。この場面では子供たちはこういうことを言っているのだと結びつけて考えることができる。

この氷上先生の手記されている論説の一番最後が、本当にいい国語の資料だと思う。何回も言うが先生方はぜひこれをこのままでいいので真似して取り組んでほしい。ごんぎつねであれ、一つの花であれ、このままで良いからやってみて子供たちに同じ与え方をして子供がどう反応するか、自分がどうファシリテートしていけばよいか、そういうことで学んでいけたら良い。

やはり、この「国語教育」についてのここで示されている資料を読んで、私達日本人が国語である日本語を身につけるために大切なことを教えてくれている資料だなというふうに思った。日本語の言葉の感覚というものは、多分今割合やられている、大まかに読んでまとめるというような、国語の授業だけでは磨かれないもので、言葉にこだわった読みの経験を重ねていかないと、養われないのではないかなと思っている。

私自身を振り返ってみたときに、物語や詩などの授業で、先輩の先生から言葉を比較しながら読みなさいというような指導をもらって、読むことを教えていただいた記憶がある。読めば読むほど様々な解釈が出てくる。そして面白いなというふうに、その教材研究の面白さに気づかせていただいて、面白いからまた次の読み物もそれで読んでみようというふうに、国語の授業を作っていく楽しさを教わった経験を思い出した。それで、言葉にこだわった読み方を授業でしようとする、この精読するというにはすごく時間がかかる。限られた事業時数の中で、これを毎回することは絶対無理だと思う。ただ、小学校の本当に小さい短いお話を取り扱っている頃から、いくつか教材を決めてしまって、そしてそれを共有し、隣のクラスの先生とその学年とかで共有して、取り組んでいくということを学校全体でしていいたら、自分にも財産がたまってくるし、授業案としての財産がたまってくるし、学年学校としてもその財産がたまっていって、日本語に敏感な子供たちが育っていくんじゃないかなと思って読ませていただいた。

そして、私もやはり氷上先生のこの論説は 50 年前ということに驚いた。今な

お絶対大事にしなくてはいけない教材研究の手法で、そしてこれからも続けなければいけない不易のものだと思った。その中のペンを手にして解釈した言葉を書き留めていこうとすると、言葉の奥や周辺にただよう「非ことば」が私の言葉となって現れるというのは、これはいろいろなものを読んだときに、私でも実感しているなというふうに思うフレーズである。それで、これは石井先生とか千種先生も人生をかけて読むとか。自分の存在を受けて読むと表現されているんですけども、私レベルでも、何かを読んでいるときに必ず自分自身の経験やそのときの感情がよみがえったりして、深く関わって読んでいるんだなということを実感する。それは1人1人違う。だからこそ他者と対話する意義があり、対話をして違いに気づくことによって、さらに自分のこの言語感覚が広がり、磨かれていくというふうに読みを深めていくことができるのではないかなというふうに思う。授業中の子供たちも、そういう状況に持っていきたいと思うが、先生方も共同研究されるときに、積極的に対話しながら、一緒に教材研究をしていくことで、先生方自身のその言語感覚が磨かれて広がっていき、子供たちの話す言葉にも敏感になっていくのではないかなという思う。5月の教職員研修会で読み合わせをされたというふうに書いてありましたので、先生方がぜひ教材研究に生かしてくれるものと期待しているところである。

それからもう一つお話ししたい。最後の方の資料の学びに向かう力人間性等を涵養することはできているのかという資料だが、やはりこの学習目標の三つ目の柱である、学びに向かう力、人間性等は、評価しにくいとずっと言われてきていて、私自身も数値化して評定するなんてちょっと難しいし、その信憑性に自信が持てないと思っていた。それで文部科学省では粘り強さを図ったり、それを振り返って自己調整をしているかどうかということにそういう側面をしっかりと見とって測ってくださいと言われたが、それだって難しいというふうに散々悩み続けた課題なのである。この学びに向かう力を育てるためには、子供自身が工夫したらうまくできたという経験と、工夫してもしても難しくてなかなか出来なかったという失敗経験と、失敗をしたんだけどそれを何とかして乗り越えたいという努力する経験をいくつも積み重ねていかないといけないことなのだと思うので、そこには量も質も必要なことなのではないかというふうに考えている。次の指導要領改訂でどのように対応していくようになるのかっていうのを興味を持っていきたいと思う。

片 倉 委 員

私も今井むつみ先生の「言葉の意味が分かること」から、日々生活をしていると経験をもって無意識に言葉を選んでいるのだなと感じた。コップのお話のところで、小さい子にどのようなコップかを説明するときに、取っ手があるとかないとか、色々を見て知っていることではない情報を伝えるというの

は、伝え方によって語彙がどんどん増えていくというのもあって、子供が小さいうちから使える言葉を増やすにはどのような学習をしたらよかったのかなと、今更ながら考えさせられるなと思った。簡単にコップとかカップ、グラスなどいろいろな言葉があるため、子供の語彙を増やすには、小さいうちからどのような語彙を使った方がいいのかというのを読んでいて思った。次に、この後の筑波大附属小学校の弥延先生の小学校 5 年生の授業の話で、授業で読んだ後の感想を一言でイメージを表してから、子供たちが理由をわけてみたり、それぞれ目の付けどころが違ってもいいが発言がどんどん続いていくので、1 時間目の授業だけだったようだが、その次の授業がすごい気になると思った。この写真だけしかわからないが、すごく意欲的なのだろうと、みんなそれぞれ意見があって素晴らしい、こういう授業を聞いてみたいと思った。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和 8 年 7 月分行事予定について説明。

1 0 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 臨時教育委員会は令和 8 年 7 月 2 日 (木) 午後 2 時から開催する。

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和 8 年 7 月 14 日 (火) 午後 1 時 30 分から開催する。

1 1 閉会宣言 午後 4 時 00 分

令和 8 年 7 月 14 日

署名委員

署名委員